

授業科目名 <英訳>	地球惑星科学課題研究 T 1 5 Special study course II(Earth & Planetary Sciences) T15				担当者所属・ 職名・氏名	理学研究科 教授 理学研究科 教授 理学研究科 助教	酒井 治孝 山路 敦 佐藤 活志				
配当 学年	4回生以上	単位数	12	開講年度・ 開講期	2015・ 通年	曜時限	その他	授業 形態	卒業研究	使用 言語	日本語
科目番号	5504										
[授業の概要・目的]											
地質学的データにもとづいて、テクトニクスと古気候・古環境に関する研究をおこなう。具体的には、野外地質調査や堆積物・微化石の分析，計算機によるシミュレーション実験などを行い，その成果を論文にまとめ，口頭発表を行う。研究を通して自然観察力，調査データの分析・総合力を涵養すると同時に，論理的な考え方と研究成果の発表の仕方を修得する。											
[到達目標]											
大学において学修した知識と技術をフル活用して1つのテーマについて研究し、その経過と結果を口頭発表し論文としてまとめることで、問題発見能力と解決能力、論理的思考能力をつけると同時に、プレゼンテーションの力をつける。											
[授業計画と内容]											
研究テーマとしては、次のようなものがある。 (1)日本列島形成史の解明（例えば日本海形成のテクトニクス）。 (2)堆積盆のテクトニクスに関する研究。 (3)断層・褶曲・断裂の形成に関する研究。 (4)探査機データによる他の惑星・衛星の地質学的研究。 (5) 地層中の微化石・重鉱物による古環境の変遷に関する研究。 (6)ヒマラヤ山脈のような衝突型造山帯形成のテクトニクスに関する研究。 (7)ヒマラヤ・チベット山塊の上昇に伴う堆積環境と古気候の変動に関する研究 (8)数百万年にわたるモンスーン気候の変動史の解明。 これらの研究テーマに対する手段として、地質調査・ボーリングコアを含む岩石試料の分析・プログラミング・数値計算，またはこれらの組合せを用いる。地質学的データの取得・分析・総合を通じて、科学的な問題解決の能力を養うことを重視する。											
[履修要件]											
地質学鉱物学分野の基礎的な講義と実験・実習を履修していることが望ましいが、必須要件ではない。ただし、地質調査による研究では、必須である。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
日常の研究活動とゼミの出席状況，提出された論文と最終口頭発表に基づいて，総合的に評価する。											
----- 地球惑星科学課題研究 T 1 5 (2)へ続く -----											

地球惑星科学課題研究T 1 5 (2)

[教科書]

授業中に指示する
研究テーマに照らして必要なら指示する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する
研究テーマに照らして適宜必要なものを指示する。

[授業外学習(予習・復習)等]

卒業研究に必要な文献やテキストを読むこと。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に定めないが、適宜研究経過報告を行うこと。必要な時には、酒井 (hsakai@kueps.kyoto-u.ac.jp)、山路 (yamaji@kueps.kyoto-u.ac.jp)、佐藤 (k_sato@kueps.kyoto-u.ac.jp) まで連絡すること。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。